

日本工学院八王子専門学校	開講年度	2019年度（平成31年度）	科目名	アナライズ 4	
科目基礎情報					
開設学科	ミュージックアーティスト科	コース名	サウンドクリエイターコース	開設期	後期
対象年次	2 年次	科目区分	選択	時間数	30時間
単位数	1 単位	授業形態	実習		
教科書/教材	Protools 101				
担当教員情報					
担当教員	柴		実務経験の有無・職種	有・作編曲エンジニアリング	
学習目的					
楽曲制作にはメロディやコードや理論の他にも、いかにその曲を魅力的に聴かせるか、という、エンジニアリングの部分も不可欠となる。特に作編曲を自分でこなしていくサウンドクリエイターコースの学生は、自分の曲にギターやボーカルといったプレイヤーの演奏を録音する必要があり、最終的に曲を発表するところまで自分でコントロールしていく技術が必要である。また外部のエンジニアやプレイヤーにデータを渡す際のデータの取りまとめなども重要になってくる。この授業では、AVID社のProToolsというDAWソフトの操作を覚えることを基本として、今後音楽活動で必要になってくるレコーディング・ミックス・マスタリング・他プレイヤーとの連携のためのノウハウなどを理解し実際に操作できるようになることを目的とする。					
到達目標					
作編曲で仕事をしていくためには、自分の曲にギターやボーカルといったプレイヤーの演奏を録音し、自身の楽曲を市販されている既存楽曲に近いレベルにまでクオリティを上げるため、プラグインエフェクトを理解し、ミキシングで、より楽曲の魅力を高め、イメージした音を作り出せる。最終的に曲を発表するところまで自分でコントロールする技術とノウハウを身につける。また動画に対する音の処理を学習し、音楽だけではなく動画に対してもクオリティの高い音づけができる。					
教育方法等					
授業概要	アナライズ1・2で学習した内容と、ProTools101の資格取得を通じて学習した内容を前提として、さらに実際の音楽制作に直結した内容を扱う。レコーディングではマイクのセッティングや機材の取り扱い方、プレイヤーに気持ちよく演奏してもらうためのディレクションのノウハウなどを学習していく。効果音作成やフォーリー収録、MA作業などの、動画に対する音づけ、という部分も多く取り扱う。				
注意点	授業で使う教材を配布した後、講師の説明と実演を見てから、各自が自分のMacで作業をする。講師の説明をよく聞いてノートをとること。基本の操作は一年を通して何回も行うので、そのときに自身のノートを参照できるようにわかりやすくまとめること。またそれぞれの作業終了後に理解度をチェックするため成果物を提出する。この提出物が評価をする際の対象となるので提出日に欠席しないこと。またヘッドホンや変換端子などは各自用意すること。この授業時数の4分の3以上出席しない者は定期試験を受験することができない。				
評価方法	種別	割合	備 考		
	試験	30%	試験を評価する		
	小テスト	10%	授業内容の理解度を確認するために実施する		
	提出物	30%	授業内容の理解度を確認するために実施する		
	成果発表 (口頭・実技)	10%	授業時間内に行われる発表方法、内容について評価する		
	平常点	20%	積極的な授業参加度、授業態度によって評価する		
授業計画（1回～15回）					
回	授業内容		各回の到達目標		
1 回	MA 実習(1)		ProToolsにビデオを読み込んで、効果音ライブラリーの仕組みを理解できる。		
2 回	MA 実習(2)		映像に必要な効果音の素材をリスト化し、収集することができる。		
3 回	MA 実習(3)		効果音を加工して貼り付け、プラグインエフェクトとオートメーションで加工できる。		
4 回	MA 実習(4)		用意したトラックを映像の演出を考慮しミックス、自作曲を加えて書き出しができる。		
5 回	フォーリー実習(1)		フォーリーという音づけの仕組みと概要を理解し、録音の準備ができる。		
6 回	フォーリー実習(2)		映像に合わせてフォーリー収録ができる。		
7 回	フォーリー実習(3)		映像に合わせてフォーリー収録ができる。		
8 回	フォーリー実習(4)		収録した複数のトラックを映像の演出を考慮しミックス、自作曲を加えて書き出しができる。		
9 回	オーケストラのミックス(1)		SMFを読み込み、各パートに最適な音源を割り当てることができる。		
1 0 回	オーケストラのミックス(2)		各パートにエクスプレッションやオートメーションを使用し表情をつけることができる。		
1 1 回	オーケストラのミックス(3)		各楽器の奏法による音源差し替えや配置の変更ができる。		
1 2 回	オーケストラのミックス(4)		すべてのトラックがひとつのサウンドになるようにミックスができる。		
1 3 回	マスタリング実習(1)		コンプレッサとリミッターの仕組みを理解し、マスタリングの必要性を理解する。		
1 4 回	マスタリング実習(2)		Youtubeなどのネット公開・放送用の音声に必要なラウドネスメーターを使用できる。		
1 5 回	マスタリング実習(3)		販促用CDに必要な複数曲の曲間調整を含めたマスタリングをすることができる。		